

日本語の不自由な幼児児童生徒サポーターの配置状況について（人員数と状況）

学校教育部 学校教育課

## ア 配置状況

(単位：人)

年度		R1	R2	R3	R4	R5	
幼児・児童・生徒数	配置別	幼稚園	2	0	1	1	2
		小学校	34	40	31	32	30
		中学校	8	7	7	3	9
		養護学校	1	1	1	0	0
		合計	45	48	40	36	41
	母国語別	フィリピン語	7	6	5	3	3
		英語	21	17	14	13	11
		スペイン語	1	1	0	0	1
		中国語	9	8	5	8	10
		ネパール語	6	0	0	0	0
		ポルトガル語	0	7	7	2	2
		タイ語	0	4	4	5	5
		ロシア語	0	0	1	2	5
		ドイツ語	0	2	0	0	0
		ウルドゥー語	0	1	0	0	0
		インドネシア語	1	2	1	1	2
		イタリア語	0	0	2	0	0
		ハンガル語	0	0	0	1	0
		スワヒリ語	0	0	1	1	1
		ヘブライ語	0	0	0	0	1
合計	45	48	40	36	41		
登録サポーター		26	48	51	49	54	

※R5年度については、10月13日時点の数字です

## イ 配置内容

### 1 目的

学力向上推進事業の1つとして、日本語が不自由な幼児児童生徒（帰国幼児児童生徒も含む）の学校園生活を支援し、地域社会に速やかに適応させることを目的に、サポーターを派遣している。

### 2 種類

日本語が不自由な幼児児童生徒（帰国幼児児童生徒も含む）が在籍する市立幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校に、次の2種のサポーターを派遣している。

- (1) 日本語の不自由な幼児児童生徒の学校園生活を支援し、学校園と家庭との意思疎通を助けるための幼児児童生徒の母語を理解するサポーター
- (2) 日本語を母語としない幼児児童生徒に、日本語を第二の言語として教えるための専門教育を受けそのための技能を持つサポーター

### 3 対応言語

可能な限りすべての言語に対応するようにしている。

### 4 派遣回数

原則として次のとおりとしている。ただし、個別の幼児児童生徒の状況に応じて対応している。

- (1) 在日期間が6ヶ月未満・・・週3回程度（1回2時間程度）
- (2) 同 6ヶ月以上～1年未満・・・週2回程度（1回2時間程度）
- (3) 同 1年以上・・・週1回程度（1回2時間程度）
- (4) 幼児児童生徒が日本語を理解できても、保護者が理解できない場合は考慮する。
- (5) 中学3年生は進路相談等も加味して、派遣回数を考慮する。
- (6) 県の多文化共生サポーターの派遣がある場合は、その回数も含めて考慮する。

### 5 内容

- (1) 学校園での個別日本語指導にあたる。
- (2) 学校園での教員と幼児児童生徒間の通訳及び教育的相談にあたる。
- (3) 家庭と学校園間の意思疎通の支援(通訳及び文化・習慣等の違いの説明)にあたる。
- (4) 家庭訪問や懇談会等の通訳及び内容の説明にあたる。
- (5) 幼児児童生徒の相談に応じ、悩みや不安の解消にあたる。
- (6) 幼児児童生徒に母語や母国の文化に誇りをもたせ、その保持・伸長の支援にあたる。